

辺野古通信

第78号 2021年11月19日



11/6 辺野古「ブルーアクション」新宿駅南口に50人



11/15 宮古島ミサイル弾薬搬入抗議防衛省行動70人

発行 沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座(沖縄講座@横浜)
沖縄講座 HP <http://www.7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/>

サンゴを殺すな！琉球列島の戦場化を許すな！

■7/6 サンゴ移植訴訟で最高裁は沖縄県の訴えを却下した。政府防衛省に付度した不当判決だ。しかし、沖縄に関わる判決で初めて5人の最高裁判事の内2人が県の訴えの正当性を認める「少数意見」を公表した。玉城知事は「県の主張に正当性があると確信した」と評価した。(サンゴ移植を巡る国と県の攻防は2頁参照)

■今夏も米兵による事件・事故、米軍機のトラブルが続出している。背景には「台湾有事」を想定し激しさを増している軍事訓練がある。7/13には普天間所属のCH53E大型ヘリから1トンを超えるコンテナの落下事故(渡名喜島沖)があり、8/12には本島中北部飛行中の普天間所属MV22オスプレイが1.8km²のパネルなどの部品落下事故(場所不明)と続き、不時着や緊急着陸事故も。昼夜問わず騒音被害も激化。沖縄の軍事植民地状況は深まるばかりだ。

■8/26 日米合同委員会で普天間基地の有機フッ素化合物PFAS汚染水の扱いを協議中に、米海兵隊が一方的に基地外の公共下水に汚染水排出を強行した。(3頁参照)

■8/27 沖縄防衛局は大浦湾側N2護岸工事を強行着工。軟弱地盤の存在を防衛省も渋々認め昨年4月に地盤改良工事のための設計変更申請を沖縄県に提出、県は沖縄防衛局に変更申請の問題点・疑問点を4回にわたり質問し、現在も審査中だ。つまり大浦湾側の設計変更は承認されていない。にもかかわらず政府防衛省は知事の「承認」を前提に、大浦湾側の護岸工

事を進めるだけでなく、新たな工事の予算化、業者への発注まで強行している。10/1には大浦湾側の埋め立て区域に注ぎ込んでいる美謝川の水路切替工事も、県との協議中にも拘らず強行着工した。

■10/31 総選挙の沖縄1・2区ではオール沖縄の候補が勝利したが、3・4区では自公推薦候補に敗れた。特に辺野古を抱える3区の敗北は残念だが、この結果をもって「新基地『理解』は早計だ」(11/1琉球新報社説の見出し)。自公推薦の島尻候補は選挙戦で「辺野古」には一切触れず、コロナ禍の経済振興が争点となった。

■岸田政権になっても沖縄への強硬姿勢は変わらない。「台湾有事」を煽り立て琉球列島の軍事要塞化を極限まで推し進め、離島を舞台に民間施設まで利用した日米で大規模軍事演習を展開する。11/14宮古島陸自ミサイル部隊の弾薬の本格搬入が始まった。弾薬の詳細、輸送ルートも情報公開せずに民間港から公道を使って市街地を通過し保良弾薬庫に搬入された。現地の抗議行動に連帯し11/15防衛省前抗議行動に70人が集まった。離島は人間の住んでいる島だ。沖縄戦の再現、琉球列島の戦場化を許してはならない。

■みなさんからのカンパは約20年間の累計3,317,918円(11/1現在)。ヘリ基地反対協等を通じ辺野古ゲート前や海上、安和の阻止行動等に役立っています。郵振口座 00210-0-2021 沖縄連続講座

辺野古の海を壊すな！沖縄を戦場にするな！横浜講演会

- ◆日 時 2021年12月12日(日)13時半
- ◆会 場 鶴見沖縄県人会館(横浜市鶴見区)
- ◆沖縄からの訴え 山城博治さん+宮城善光ミニ・コンサート
- ◆資料代 800円(学生無料)
- ◆主 催 島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会

「移植」でサンゴは守れない！

生物多様性豊かな辺野古・大浦湾の海は、希少サンゴの宝庫だ。そのサンゴが、日々破壊されている。埋立て海域のサンゴを移植によって保全することができる、というのが沖縄防衛局の言い分だ。しかし事実はどうか？2018年に沖縄防衛局は辺野古側の浅瀬部分の絶滅危惧種オキナワハマサンゴ9群体を移植したが、すでに過半の5群体の死滅・消失が確認されている。水産庁が2019年にまとめた手引きでも「沖縄で移植或いは移設されたサンゴ群体は30万株を超えるが、4年後の生残率は20%以下である」と記すなど移植サンゴの生残率が低いことを認めている（7/29 沖縄タイムス）。それでも「辺野古埋め立てありき」の官邸の指揮のもとで沖縄防衛局はサンゴ移植を強行し続け、防衛局お抱えの「専門機関」である環境監視等委員会も、司法も官邸に付度して防衛局の暴挙にお墨付きを与えている。

県の中止指導を無視してサンゴ移植を強行

玉城知事がサンゴ移植を許可しないのは違法だと決めつけた7/6最高裁判決（ただし5人の判事の内2人が知事の判断を支持する異例の少数意見を示した事実は重要）を受けて、7/28 沖縄県は条件付きで移植を許可した。その条件とは、サンゴ研究者も強く支持する「台風や高温水期（7～9月）は移植を避ける」というものだ。この移植条件は、後日、県の照会に回答したサンゴ礁学会も支持した。ところが工事を急ぐ沖縄防衛局はこの条件を無視して7/29に大浦湾側のN2護岸建設予定地の小型サンゴ830群体の移植を強行。防衛局が県の中止指導に従わないため7/30に知事は移植許可を撤回。移植中断を余儀なくされた沖縄防衛局は農水省に不服申し立てと「執行停止」の仮処分申請、8/5農水省が県のサンゴ移植許可撤回を「執行停止」としたため8/6に沖縄防衛局は移植作業を再開した。8/11までに移植を完了させた小型サンゴ830群体以外にも、N2護岸予定地周辺には大型サンゴやショウガサンゴが確認されているが、沖縄防衛局はこ



▲8/28 琉球新報記事から

れらの周辺サンゴは移植もしないまま8/27にN2護岸建設工事を始めた。N2護岸建設を急ぐのはK8護岸とK9護岸に加えて3つ目の土砂陸揚げ栈橋として利用するためだ。

取り返しのつかない自然破壊

へり基地反対協ダイビングチーム・レインボーがサンゴ移植作業の現場を撮影し報道などで公開している（写真）。埋立て予定海域でサンゴを削り取り、買



い物かごに入れて運搬し、移植先の岩盤を工具で均しながら、毒性もあるという水中ボンドでサンゴを固定させていく映像を見ると、移植がサンゴの破壊でしかない実態が分かる。10/15に移植地点に潜水して移植されたサンゴの一部が死滅したり消失している状況を確認した日本自然保護協会の安倍真理子さんは「何万というサンゴ群体を移植すれば、もともと移植先にあったサンゴや魚などの生息環境に変化を及ぼす」と指摘している（10/17 琉球新報）。そもそも軟弱地盤を抱える大浦湾側の設計変更申請を玉城知事が「不承認」とすれば、サンゴ移植も護岸工事も法的根拠を失い、取り返しのつかないサンゴの破壊、自然破壊だけが残される。工事や移植作業を請け負った企業には利益を残すが、投入された巨額の税金は無駄となる。これでいいのか！

サンゴを殺すな！横浜駅西口でキャンペーン

11月2日、横浜駅西口の高島屋前で「サンゴを殺すな！パブリック・ビューイング」。「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」の呼びかけに10数人の仲間が集まり、スクリーンに辺野古の海中の映像を映し出し、横断幕やサンゴの写真パネルを掲げて、沖縄・辺野古で起こっていることを行き交う人々に訴えた。映像に関心を示し、資料を求めてくる若者も。反応は上々だった。



オール沖縄に連帯し、新宿駅南口で「辺野古ブルーアクション」

新基地建設阻止に向けて頑張ろう三唱するオール沖縄会議の関係者ら＝6日、名護市辺野古



新基地反対 揺るがず
オール沖縄会議 オンライン集会



11月6日(土)11時から正午まで、新宿駅南口広場で、オール沖縄会議に連帯する辺野古ブルーアクションが展開された。オール沖縄会議の辺野古ゲート前集会の様態をオンラインで中継し、横断幕や写真パネルを掲げて辺野古の問題をアピールした。辺野古では土砂降りの雨の中160人が浜のテントに結集、新宿駅南口にも50人を超える仲間が集まった。(左は11/7琉球新報記事から)

有機フッ素化合物汚染の深刻な実態 米軍は基地内調査を拒否

市街地に近接する軍事基地が周辺住民の命と暮らしを脅かす。その象徴的な事例が基地から漏れ出た有機フッ素化合物 PFAS 汚染だ。もちろん神奈川も含めて軍事基地を抱える地域のどこでも起こりうる問題だが、とりわけ基地が集中する沖縄で深刻な実態が次々と明るみに出ている。

昨年4月の米軍普天間基地からの PFAS 流出事故で一挙に問題が顕在化、本年2月には空自那覇基地でも PFAS 汚染が暴露された。当初空自は「毒性や損傷性はほとんどない」と発表していたが、琉球新報の調査報道で発がん性が指摘される有害物質が含まれていることが明らかになり、防衛大臣が謝罪に追い込まれた。汚染は嘉手納基地やキャンプハンセンなど他の基地周辺にも広がっており、基地周辺住民は不安を募らせている。

日米で協議中に米海兵隊が汚染水を強行排出

そんな中、今夏とんでもない「事件」が起こった。8/26 日米合同委員会で普天間基地の汚染水の扱いを協議中に、米海兵隊が基地外の下流に排出を強行したのだ。8/27 の沖縄地元紙には「PFAS 汚水排出」「米軍“だまし討ち”」「国・県・市寝耳に水」の大きな見出しが踊った。さすがに防衛省も米軍に抗議したが、しか

し菅総理大臣(当時)がバイデン大統領に直接抗議したという話は聞かない。「日米同盟重視」の陰で、住民の命と暮らしが軽んじられていると言わざるを得ない。

沖縄現地でも普天間基地への抗議行動が展開され、首都圏でも沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックの呼びかけで8/31 米大使館抗議行動が約20人で繰り広げられた(写真)。

普天間の汚染水は日本政府が引き取って焼却処分されることが発表された。その費用9200万円が税金から投入される。その後、嘉手納基地を抱える北谷町、キャンプハンセンを抱える金武町で PFAS 汚染が報道されたが、米軍は基地由来を否定し、調査も拒否している。「日米地位協定の壁」だ。県幹部から「いつまで米軍の尻拭いをするのか。半植民地だ」の声が漏れたと地元紙は伝えるが、軍事植民地そのものではないか。



特別講座 報告

「琉球遺骨—継続する植民地主義を問う」上村英明さん講演

7月16日(金)夕刻、横浜市開港記念会館にて特別講座「琉球遺骨返還請求訴訟—継続する植民地主義を問う」が開かれた。主催は「島ぐるみ会議と神奈川を結ぶ会」(以下、結ぶ会)。結ぶ会では2月と5月に辺野古新基地建設反対講演集会を企画したが、新型コロナウイルス感染拡大もあって中止を余儀なくされ、昨年10月以来9か月ぶりの集会開催。今夏、神奈川県下は依然としてコロナ禍にあり大規模な講演集会は困難な中で、事前予約制の参加者約30人の集いとなった。

最初に結ぶ会の高梨晃嘉代表世話人から主催者挨拶があり、講演に移った。講師は、恵泉女学園大学教授で市民外交センター共同代表の上村英明さん。

「琉球人遺骨返還請求訴訟を支える会/関東」の共同代表でもある。

結ぶ会は、辺野古新基地建設反対をメインテーマとして活動しているが、辺野古埋立て強行政策の歴史的背景に、日本政府による沖縄に対する植民地主義があると考え、琉球人遺骨返還請求訴訟にも注目し、「琉球人遺骨返還請求訴訟を支える会/関東」の結成に参画してきた(沖縄講座も参画)。

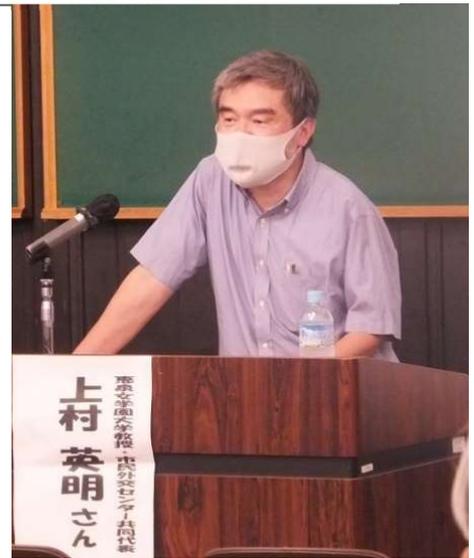
会場が感染対策で20時には完全退出しなくてはならないという制約があり、限られた時間ではあったが、琉球人遺骨返還請求訴訟の経緯とその背景、植民地主義を問う世界的な動きについて学ぶことができた。

上村さんは、ナチス第三帝国の歴史を徹底的に検証し清算したドイツが第二帝国時代(19世紀)のアフリカへの植民地支配の歴史に遡って検証を始めていることに触れ、「日本の市民は大日本帝国が植民地支配の中で何をして、誰が犠牲になったかを知らねばならな

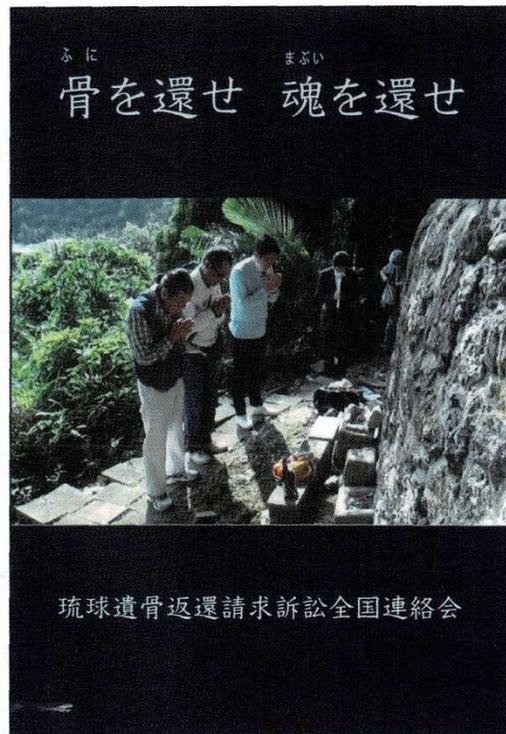
い。侵略と植民地支配の負の歴史が検証されず、清算されないから、現在の日本政府のような、どうしようもない政府を持つことになる」と指摘した。

上村さんの講演の後、請求訴訟を支える会/関東の紺野さんから連帯挨拶。紺野さんは京都地裁の裁判の現状を中心に報告。

「この問題は過去の問題でなく、現在の沖縄の問題に直結している。ヤマト(「本土」)に暮らす私たちが沖縄と向き合う以上、琉球人遺骨返還問題は避けて通れない問題だ」と訴えた。



映像作品 (DVD) が完成



今からおよそ90年前、京都帝国大学の研究者が「学術研究」のため、琉球の墓から遺骨を持ち出した。その遺骨は今も京都大学に保管されている。

この遺骨の返還を求めて、琉球の人たちが裁判を起こしたが、京都大学は返還を拒否している。

映像は、遺骨が納められていた墓の現状や住民の想いを伝え、アイヌや琉球の遺骨を遺族や地域の人びとに無断で取り出してきた「学問の暴力」「学知の植民地主義」を問う。

百按司墓とは/原告の主張/被告京都大学の主張/
背景にある植民地主義/目取真俊さんインタビュー 他
(2021年制作/30分)

「百按司墓」
(むむじやなばか)

個人価格 2500 円 + 送料 180 円

お申し込みフォーム

QRコードから申し込みできます

<https://forms.gle/GDP9ePiHAAtCDnsb9A>



ゆうちょ銀行 (振込用紙での注文もできます)
口座番号 00920-1-237915
口座名称 琉球遺骨返還請求訴訟全国連絡会
他行からの振込の場合
〇九九 当座 0237915

制作・琉球遺骨返還請求訴訟全国連絡会
大阪市北区西天満3丁目14-16 たんぼぼ総合法律事務所気付

